

令和4年度 天童市学習支援室リバテラスちえふる

通信「ちえふる」5月号



～ ことばについて思うこと ～



山形弁とカタカナ語



山形弁の「ばんげだどりゃ」という方言を聞いて、すぐに理解できる人は、内陸出身で年齢もだいぶ重ねた方に限られるのではないのでしょうか。ちなみに「ばんげだどりゃ」は「日がすっかり落ちて、もう夜になりましたね」というような意味の方言です。

一方「モチベーション」というカタカナ語は、今は当たり前のように目にしたり、話の中で使ったりするようになりましたが、比較的新しい言葉です。90年代末に、国内で人気定着し始めたサッカーの分野で多用された言葉が、一般的に使われるようになったようです。狭義には「動機づけ」、広義には「意欲・やる気・士気」の意味として使われています。

このように、地域に根ざしてきた方言のような言葉はだんだん使われなくなり、IT（情報技術）分野の発達やグローバル化（国際化）の加速によって登場したカタカナ語は、これからますます日常生活の中で盛んに使われるようになっていくものと思われます。

ここで大切にしたいのは、社会の動きに合わせてカタカナ語を正しく理解していきながら、年齢を超えて地域に暮らす様々な方々と言葉でつながっていけるよう、方言の良さも忘れないようにしていくことではないのでしょうか。

知らないと誤解してしまう言葉

日常生活の中で何気なく使っている言葉には、1つの言葉で複数の意味をもち、使う場面に応じて異なった解釈をしなければならない言葉があります。

例えば「せいぜい」という言葉には2つの意味があります。どちらかと言えばあまり良い意味で使われない言葉と解釈されがちですが、激励会の場面で使うことができます。「全国大会に出場する運動部の選手達を校長先生が『せいぜい頑張ってください』と激励しました。」という使い方は、正しい使い方になります。この時に使われた「せいぜい（精精）」は「力の及ぶ限り。一心に努力して。できるだけ」という意味で用いられたからです。もう1つの意味でよく使う「十分多く見積もっても。たかだか。やっと」という意味で解釈してしまうと失礼な言い方だと誤解してしまうことになります。

【適当】には「うまくあてはまること」「ほどよいこと」「いいかげんなこと」という3つの意味があります。また、【すごい】には、「寒く冷たく骨身にこたえるように感じられる」「ぞっとするほど恐ろしい」「ぞっとするほど物寂しい」「形容しがたいほどすばらしい」「程度が並々でない」という5つの意味があります。

言葉には使う人の気持ちや考えが表れることに気を留め、状況に合わせて意味を正しく理解し、解釈していくことが大切です。



訊いて学ぶ！

みて（見て・診て・視て・観て・看て）学ぶ、きいて（聞いて・聴いて・訊いて）学ぶ、書いて学ぶなど学び方には、いろいろな方法があります。

ちえふるでは「訊いて学ぶ」、すなわち「尋ねる・問う」ことに焦点をあてて、深く学ぶことにつながるよう夏休み期間中に、学習相談の期間を設けます。中学生、高校生を対象に質問を受け付けますので、ぜひご利用ください。詳しくは6月号に掲載します。

